

総務部長	五十嵐 久英君	市民部長	渡辺 成剛君
産業部長	見辺 太君	総務課長	渡辺 忍君
企画定住課長	渡辺 孝志君	財政課長	山口 和美君
能生事務所長	土田 昭一君	青海事務所長	猪股 和之君
市民課長	川合 三喜八君	環境生活課長	高野 一夫君
福祉事務所長	嶋田 猛君	健康増進課長	池田 隆君
商工観光課長	大嶋 利幸君	農林水産課長	猪又 悦朗君
建設課長	五十嵐 博文君	復興推進課長	斉藤 喜代志君
消防長	小林 正広君	教育長	井川 賢一君
教育次長	磯野 茂君	教育委員会こども課長	磯野 豊君
教育委員会こども教育課長	富永 浩文君	教育委員会生涯学習課長	穂 苺 真君
教育委員会文化振興課長		中央公民館長兼務	
市民会館長兼務	伊藤 章一郎君	市民図書館長兼務	

〈事務局出席職員〉

局長	松木 靖君	次長	松村 伸一君
係長	上野 一樹君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。
これより本日の会議を開きます。
欠席通告議員はありません。
定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員には、3番、山本 剛議員、11番、笠原幸江議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は14人ですが、議事の都合により、本日5人、7日5人、8日4人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡明に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告書の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

通告書に基づき、以下の点を伺います。

質問1、新型コロナウイルス感染症対応地域医療フォーラムの成果と今後の地域医療体制について。

- (1) 8月23日に市が主催した地域医療フォーラム「新型コロナウイルスとの共生」、その目的と成果について伺います。
- (2) 糸魚川総合病院での新型コロナ感染症診療対応、感染症拡大防止策について伺います。
- (3) 介護老人保健施設「なでしこ」の事業終了と新型コロナウイルス感染症の関連について伺います。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対応によって、行政、医療・福祉機関、市民の連携も見直していく必要があると思いますがいかがですか、伺います。

質問2、糸魚川市が推進する「売れる農業」について。

- (1) 糸魚川市農林水産課のホームページから引用しますと、糸魚川市の農業を取り巻く状況は、農業従事者の高齢化や担い手の不足など様々な課題を抱えており、早急な対応が求められている。糸魚川市は農業を取り巻く「人と農地の問題」を一体的に解決するため、地域と話し合いを進め「人・農地プラン」の実質化に取り組んでいる。地域農業の将来方針となる「人・農地プラン」の実質化について、アンケート結果を基に農業の将来の在り方について意見交換をするとともに、各種農業支援策などの情報提供を行う機会を計画した。とのことで「地域農業のこれからの考える会」を開催し、地域農業の将来について一緒に考えてみませんかと生産者や地域に投げかけをしましたが、糸魚川市に「売れる農業」を目的にしていく視点・論点があったのか、伺います。
- (2) 糸魚川市の質の高い特産品としては米がありますが、ナスや枝豆などもブランド化することが必要ではないでしょうか、伺います。
- (3) 「売れる農業」の実現に向けて、作り手から売手まで切れ目なくつながっていき、利益を

上げていく必要があります。マーケティングやマネジメントをどのようにしていますか、伺います。

- (4) 糸魚川市と都市交流をしている長野県中野市では「中野市売れる農業推進室」として農業振興に積極的ですが、それに比べ糸魚川市の取組には戦略がないと感じます。中野市に学び、若い人が担い手となってくれるような明るい未来を感じる農業、「売れる農業」の実現を要望しますがいかがですか、伺います。
- (5) 持続可能な社会やSDGsの教育において、農業を地域社会の基盤として取り上げていくべきと考えますがいかがですか、伺います。

質問3、「えちご押しひすい海岸物語」、新駅周辺まちづくりについて。

- (1) 押上区に建設中の新駅の名称が「えちご押しひすい海岸」となりました。この駅名とした理由や目的、市民からの反応や感想、駅名にふさわしいセンスの良い駅舎デザインとすることについて、伺います。
- (2) 駅名に「えちご押し」と入ると、東京都墨田区の押上との違いが分かると同時につながりに役立ちます。押上、押上地名つながりで都市交流を進めていただきたいと以前から申し上げてきましたが、これまでとこれからの取組について伺います。
- (3) 駅名に「ひすい海岸」を入ると、ひすいが拾えるジオサイト前の駅であることが分かると同時に、富山県朝日町とのつながりで公共交通利用と観光に役立ちます。また国内有数のリゾート地HAKUBA VALLEYと連携し、きらりと光るすてきな観光ストーリー「えちご押しひすい海岸物語」をつくることでエリアのイメージを押し上げます。駅周辺に付加価値をつくることを目的とする取組について伺います。
- (4) 駅開業まで残り半年ですが、開業イベントはその後を見据えたものですか。駅周辺の観光飲食施設や商工団体と協議しながら準備を進めていますか、伺います。
- (5) 駅開業に併せて駅周辺まちづくり会社をつくり連携することで、柔軟な発想と先進的な取組が実行され、住民が望む地域振興に役立つと考えますがいかがですか、伺います。

質問4、若い人たちへの行政情報伝達などにアニメを生かすことについて。

- (1) 糸魚川市のホームページは誰に見ていただき、どのように活用されているか検証してありますか、伺います。
- (2) 若い世代への情報発信にアニメを活用すべきと思います。例として富山チューリップテレビなどの先進的な取組があり、参考にすべきと思います今回提案しますがいかがですか、伺います。
- (3) 以前新潟県が取り組んだ「宝石の国」というアニメとのコラボが思いのほか人を呼び、その後、久比岐自転車道のPRキャラクター久比岐 凜（くびき りん）がつけられるなど、アニメの活用は新しい情報発信として注目され、期待されています。そこで、6月定例会一般質問で現在押上区に建設中の駅舎や鉄道に高校生や若い人から愛着を持っていただくのにアニメを使うことを提案しました。その後私なりに調査したところ、アニメと地図情報を組み合わせた観光案内が研究されていることも分かりました。今後、アニメに詳しい市民や高校生を巻き込みながら、アニメを活用した新しい情報伝達に市で取り組むことを提案しますがいかがですか、伺います。

(4) 糸魚川市は0歳から18歳までの子ども一貫教育に取り組んでいますが、全体のイメージをつかみにくいものとなっていますので、アニメを活用するなどの工夫で分かりやすくしてはいかがでしょうか。また市内で人材が不足する職業、例えば看護師や土木現場などの仕事に興味を持ち、進学から就業へとつながるように、アニメを活用することを提案しますがいかがですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、ウイルスの特性や、今後我々が実践しなければならないことについて市民周知を図ることを目的で開催いたしました。当日は200名の参加者があり、新型コロナウイルスについて正しい理解を広められたものと捉えております。

2点目につきましては、新型コロナウイルス感染症の疑いのある患者に対しましては、待合室を分けるなど、院内の感染対策チームを中心に取組を進めております。

3点目につきましては、厚生連からは新型コロナウイルス感染症との関連性はないと伺っております。

4点目につきましては、地域包括ケアシステムを構成する関係者が、お互いに情報連携をさらに深めることが重要であると考えております。

2番目の1点目につきましては、今年度は、人・農地プランの推進・強化を目的として開催いたしましたところであります。

2点目につきましては、既に、越の丸茄子は全国に通用するブランドとして確立しておりますが、他の作物についても検証しながら検討してまいります。

3点目と4点目につきましては、JAや生産者の意向を確認しながら今後も関係機関と連携し、対応してまいります。

5点目につきましては、農業とSDGsの理念は食料の供給、あるいは環境の保全といった面で深く関わっており、関係機関とともに食の教育や農業体験などに取り組んでおります。

3番目の1点目につきましては、地元の愛着と全国に発信できるものとなるように決定されたものでございます。駅舎デザインも地区と協和した施設となるよう整備をしております。

2点目につきましては、これまで住民の皆様による交流が行われるものと確認しており、今後、交流の在り方について検討してまいります。

3点目につきましては、朝日町や白馬エリアとの公共交通を生かした連携を進めていく必要があると考えております。

4点目につきましては、開業後の利用促進や地域の活性化につながっていくよう地域のまちづくり活動と連携して進めており、駅周辺の飲食店等とも協議を進めてまいります。

5点目につきましては、新駅周辺の地域資源を活用し、官民連携で取組を進めていく必要がある

と思っております。

4番目の1点目につきましては、今年度、ホームページに関するアンケートを実施しており、主に観光やイベント情報、防災情報に多くの皆様方からご利用いただいております。

2点目と3点目につきましては、若い世代から行政情報に関心を持っていただくためにアニメを活用することは、情報発信の手法の1つだと考えております。

4点目につきましては、子ども一貫教育のブランドデザインやリーフレットなどでイラストを交えながら啓発に努めております。

キャリア教育の推進に当たっても学校や事業所と連携しながら、児童生徒にイメージを膨らませるように支援・工夫をしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、地域医療体制の2回目の質問です。

医療フォーラムの成果をもう少し詳しくご報告いただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

おはようございます。

当日は、一般参加者、それから関係スタッフ合わせて約200名の方からご参加いただいております。アンケート調査を実施したわけですが、その結果から、講師の方々が、自分を守る、病院を守る、地域を守る、そういう大切さを分かりやすい言葉でご講演いただいたことで、9割以上の方から改めて新型コロナウイルスのことが理解できた、または参考になったというような意見を頂いております。

このフォーラムによりまして、新型コロナウイルスへの理解は一層深まったものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。

では、糸魚川総合病院でのコロナ感染症への対応について、もう少し詳しくご報告を頂きます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院からは、病院における取組、これを具体的な形でフォーラムでご報告いただいております。感染対策チームを立ち上げまして、このチームを中心に手指消毒、それからマスクの着用の徹底に加え、診察だとか手術の際は、フェイスシールド、N95のマスクの着用など、感染防止に努めておられます。

また、医療従事者の方々が、休憩室におきまして職員同士が密集しないような配置でありますとか、食事を取る場合でも会話はできるだけ行わないというような取組を行っておられます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。私も市民会館でお話を伺いました。その上で考えたことを質問します。糸魚川タイムスの記事に、会場に来た市民から大変ためになる内容だった。コロナの中で仕方ないが、聞く人が少ないのは残念。また機会があればとの感想が聞かれたとあります。

私も富山大学の山本先生の専門的でありながら分かりやすいご講演を多くの市民に伝えたいと思いました。この日、このとき会場に来られなかった市民、密な空間を避けている市民、また、市外の方、特に地域医療に従事することに関心のある若い人に糸魚川市の地域医療フォーラムをぜひ聞いてほしいと思いました。それほどすばらしい内容でした。

実は、密にならないほかの会場や自宅でフォーラムに参加したいという市民からのリクエストがあり、事前に担当課に伝えてはいましたが、どうなりましたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

講師からご了解を頂きましたので、当日の様子についてはケーブルテレビで撮影しまして、後日、放送する予定にしております。また、参加を自粛された方に配慮しまして、映像についてはDVDに保存し、希望される方に貸出しをしていきたいというふうに考えております。

当初、ホームページで公開できないかという検討をしました。講師とも相談をしましたが、当日のスライドについては糸魚川市用に作成したもので、仮にホームページで公開した場合、市外の不特定多数の方が自由に視聴できるということから、市民を基本にDVDを貸し出す。そういう形にさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

フォーラムのテーマが、新型コロナウイルスとの共生で、新しい生活様式への対応ですから、まずは主催者から意識を変える必要があると、こういうことだと思います。その点について、いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

このフォーラムでは、検温、手指消毒をはじめ、座席の間隔の確保、講師と手話通訳の間のアクリル板の設置など、新しい生活様式を取り入れて実施させていただきました。今後、市内におきまして市やいろんな団体でイベントなどが実施されますが、その際、主催者は新しい生活様式を十分意識し、それに則した対応を行った上で実施していただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回のフォーラムは、糸魚川市からの医療情報の出し方について考える機会となりました。例えば糸魚川総合病院の様々な取組は、糸魚川市のホームページからは分かりません。その辺り医療機関と連携して積極的に取り組んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院におきましては、院内感染防止について大変厳格な取組を行っております。それも今回のフォーラムで紹介・報告いただいたところでもあります。このことを市民に周知するという事は、市の基幹病院への安心感だとか信頼感につながるというふうに考えられることでありますことから、病院と相談する中で、市民への周知・紹介などについても検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひよろしく願いいたします。

加えて質問します。

行政、医療、福祉機関、市民の連携もコロナ対応へと見直していく必要があると思いませんか。フォーラムでは、地域包括ケアシステムについても触れていましたが、いかがですか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

おはようございます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、室内で過ごす時間が長くなり、活動量が低下するとと

もに人と接することが減少することが予想され、生活習慣病等の発症リスクが高まることが懸念されます。市民の方々に対しては、手洗いやマスクの着用、距離を取っての他者とのコミュニケーションなど、新しい生活様式の取組について普及啓発を図りながら、医療、介護、予防、生活支援などが一体的に提供されるよう関係機関と協力しまして新型コロナウイルス感染症に対応した地域包括ケアシステムを進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

このことにつきましては、8月7日の市民厚生常任委員会において介護施設の対応は医療機関との連携が課題となるが、市民部の中で各課にまたがることについては、総合調整しながら市民の安全・安心を確保してまいりたいと渡辺市民部長が答弁されています。その具体的な取組を渡辺部長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

具体的な取組ということでもありますけども、今日、一部マスコミで報道がありましたが、一昨日、福祉施設を対象に保健所の保健師がコロナ対策について研修をするという機会がありました。これは市の福祉事務所が主催し、保健所の窓口であります健康増進課と連携しながら開催したものであります。今後もこうした取組など、連携しながら市民の安全・安心を確保してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

引き続き、よろしくお願いいたします。

介護老人保健施設「なでしこ」の事業終了とコロナ感染症の関連について、特にないという市長の答弁はありましたが、その辺りもう少し詳しく担当課にお話しいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

施設を運営します厚生連からは、看護職員が不足し、今の地域医療を存続させるか、また介護老人保健施設の存続、この2つの判断に迫られる中、病院の医療体制を優先するため老人保健施設の「なでしこ」を廃止せざるを得なかったと伺っておりまして、新型コロナウイルスとの関連性はないものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

「なでしこ」は、医療機関の中の介護施設ということの安心感があり、当てにする市民が多かった。それだけに「なでしこ」がなくなることへの不安や影響も大きいと考えます。今後、新しい受入れ先や在宅の医療対応はどうなっていくのか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

田原議員おっしゃいますように「なでしこ」の存在につきましては、病院と家庭との間の施設ということで、市民の期待も大きかったものと認識しております。この廃止に当たりましては、利用されている方、また、その家族が困ることのないよう厚生連におきまして、今後の介護サービスの調整や受入れ先の調整を行っているところであります。

サービスの調整につきましては、利用者の状況等に応じてになるかと思いますが、ショートステイ等の在宅サービスを基本に特別養護老人ホームやグループホームへの入所、また、在宅での疾病等における療養を必要とされる方には、訪問看護によります対応を調整いただいているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

まさに地域包括ケアシステムの推進、そこには市の働きがさらに必要だろうということで、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

「なでしこ」の閉鎖は、医療人材不足が原因との課長答弁が先ほどありましたが、コロナ感染症への対応で糸魚川総合病院の医療人材不足に拍車がかかり、地域医療体制の崩壊につながることを私はずっと心配しています。現時点での糸魚川総合病院への影響について、今後の病院運営への市の支援について、この機会に伺ひます。具体的にどうすると、ご説明いただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今のところ新型コロナウイルスの影響による医療従事者の離職ということは、ないものと伺ひております。

しかし、いつ感染者が発生するのか、あるいはいつ入院患者の受入れが始まるのかというふうなことで、不安な状態での勤務が続いているというふうにご考へております。このため県と協力しまして、医療従事者の宿泊施設を確保するというごことで従事しやすい環境の整備にご努めております。

また、市としましても院内感染を防止する取組に対し、補助事業による施設整備等の支援を行いたいというふうに考えております。いずれにしましても病院側と情報共有をしながら、今後とも必要な支援に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしくお願ひいたします。

今回の質問、コロナ感染症への対応はもちろんですが、私が常に心配するのは、糸魚川総合病院が担う大切な医療、救急、出産・分娩、透析など、なくてはならない医療の確保です。市民が安心できる医療体制の確保に、市としてもしっかり取り組んでいただきたい。これまでも再三お願いしてきたことですが、医療の質問の最後に改めて要望いたします。ご答弁を頂きたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今お話のありました内容につきましては、糸魚川総合病院、それから新潟県と連携しながら、これまでも地域医療の体制の確保に向けて取組を進めてきております。糸魚川総合病院については、市内唯一の基幹病院であります。これはご案内のとおりでありますし、今後とも、今ほどありましたなくてはならない地域医療の体制が確保できるように、引き続き努力をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、売れる農業の推進についての2回目の質問です。

地域農業のこれからを考えるとといった場合に、「売れる農業」をキーワードに農地の問題、生産者の課題、販路と流通、消費の拡大、利益の確保と事業の継続、持続可能な社会の実現やSDGsとの関わりを学ぶ教育など、農業は地域に暮らす私たちの生活の基本であることを確認する必要があると思ひますが、担当課はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

おはようございます。

当市の農業につきましては、議員ご指摘のとおり、食料生産はもちろん産業の1つとして、また、地域コミュニティなどの私どもの市民生活に身近な関わりを持つものであり、しっかりと市民の皆様、農業の大切さを分かっていただく、再認識をしていただく必要があるというふうに考えてござ

います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

SDGsと農業の関わりを学ぶ教育、あるいは農業は、地域に暮らす私たちの生活の基本であると。このことを学ぶ必要があると私は思います。

そこで、教育委員会の見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

おはようございます。

お答えいたします。

学校現場におきましても農業学習、それから農業体験、そういった活動につきましては、大変重要な教育、学びの場だというふうに捉えております。これまでも小学校では、生活科あるいは総合的な学習の時間、社会科の学習、あるいは家庭科、そういったものについて、米の生産あるいは加工、消費、さらに文化祭や、あるいは道の駅等での販売、そういったところまでを含めて活動を行ってまいっております。

併せて、そういった一連の活動には、地域住民との深い交流があって成り立っております。そういった中で農業、食料生産についての大切さを、子供たちは実感的に学んでいるものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。中野市では、中野市売れる農業推進室として農業振興に積極的です。糸魚川市もその戦略に学んでほしいと今回質問に挙げていますが、この点、改めて担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

中野市の農業につきましては、農業の主力は果物、キノコなどということがございます。そういった中で、当市は米ということと比較しますと、やはり鮮度や保存期間など、また販路、販売方法に違いは出てきているのだろうということがございます。そういった中ではありますが、基本的な情報発信の面など中野市の取組をも参考にしながら、当市におきましてもしっかりと農業振興に取

り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

中野市と糸魚川市では、風土も歴史も農業を取り巻く環境も違いますので同じことはできないかもしれません。

ただ、売れる農業ということで、市が推進している、市が先頭に立ってやってる。その情報発信の在り方、ここを学んで、ぜひとも取り組んでいただきたいということでございます。その点もう一度ご答弁いただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

情報発信につきましては、私どもしっかりと対応していくということでございます。JA等の発信、また、私どもの発信ということで区別をつける。また、生産者の皆さん方からも受け入れられる情報発信をしていくということでございます。そういった点を含めまして、しっかりと研究して、これから取り組んでいきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回の質問のために、私は糸魚川市担当課、市内の専業農家さん、JAひすいさん、越の丸茄子集荷場、JAひすい直売所食彩館などを回って、お話を伺ってきました。売れる農業を1つ考えるにおいても、様々な課題や問題があることが分かりました。今回、その全てに立ち入ることはしませんが、あと何点か質問したいと思います。

まず、コロナの影響で市内や首都圏への農産品の販売が落ち込んでいないか。市内農家やJAの現状と今後の市の対応について担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

コロナの影響につきまして、今回、私どものほうで主立った法人や生産者の方々へ聞き取りを行ったということでございます。議員のご心配していただいておりますとおり、やはり落ち込んでいる農家の方々はいらっしゃる。けども逆に売上を伸ばしているところもあります。全体としては、現時点では影響は少なかったものだろうというように考えております。

また、影響を受けた農家に対しましては、私どもJAとも連絡をしながら、今現在では国の持続化給付金などの支援策、また、国の他の支援策についてもご紹介、また、協力・対応していくとい

うことで進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川の特産品としては米がありますが、よりよい価格で販売できていますか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

当市内の生産者の方々におかれましては、消費者との直接販売をされている方、また、JAのほうに出されている方ということでもあります。いろいろいらっしゃるということでございます。その中で今価格面だけではなくて、様々な作業の手間、また、クレーム対応等のことも考えつつ、トータルな面で個々の生産者が経営判断の中で動いていらっしゃるということでもあります。そういった中で現在のよりよい価格というところにつきましては、それぞれ考え方は違うんだろうなということでもあります。

また、市のほうにおきましては、糸魚川産米の付加価値を高めるために糸魚川産高品質米認定事業というものを取り組んでおります。今後も農家の皆さんの意見を聴きながら、関係機関として、また支援してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

若い方が米を食べなくなった。安い米を求めているという傾向がありますが、ここを変えていきたいと思います。そのアイデアがあれば、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

若い方の米離れということでございます。こちらにつきましては、当市のみならず、全国的な傾向であろうかというふうに考えているところであります。私どもとしますと、先ほどこども教育課長のほうからもお話ありましたとおり、まずは足元からということで学校現場における農業学習、これはJAのご協力によりまして農業教室、また市内の農業施設見学をはじめ、また、ジオ給食も行っているということでございます。

特にジオ給食では、地元の食材を生かした献立や週4回糸魚川産コシヒカリによる米飯給食を行っているということでございます。食育として地元の食材を味わい、故郷の味として定着することを期待しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

売れる農業の実現に向けて、ナスや枝豆をブランド化することの必要性については、意見は一致していると思いますが、首都圏販売、地産地消、それぞれの課題について担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

越の丸茄子につきましては、市長答弁にもありましたとおり、既にブランドが確立されているというところがございます。したがって、首都圏を中心にまずは販売されているということであり、また、市内でも食彩館等、直売所で販売されており、市民の方からも好評を頂いているという状況であります。

枝豆につきましては、現在、実験栽培中であります。現在は、市内を中心に販売しておりますが、取組を検証する中で、ブランド化についても検討していきたいというふうに考えてございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

越の丸茄子、おいしいですね。先日もテレビで連続して放送されていまして。新潟県は、ナス王国とも言われ、様々な種類のナスが取れる中で、例えていえば越の丸茄子は糸魚川の、そして新潟のスターと言えるものです。今後、このスターを全国で売れるものにすると同時に、地元で愛されるアイドルとしても育てていくことも大切だと思います。アイドルを売っていくには、ファンが多いほうがいい。であれば、もっと増産して流通させる工夫や施策が必要になってきます。今後、越の丸茄子及びナスが、米に代わる収入源となるためには、どのような課題がありますか。また、その課題に対して、今後、市はどのような取組をしていきますか。このことをJAにお願いするだけでなく、市自ら進んでできることは一体何でしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

稲作に比べまして丸茄子の生産は、大変手がかかるということでございます。ふだんの世話から出荷に至るまで大変な作業時間があり、なかなか丸茄子で大規模な面積を栽培することは難しいという状況でございます。そのような状況の中でもありますので、現在、糸魚川市でも市内の農業者の皆様には、稲作との複合経営ということで動いていただいております。また、生産面では、やはり高齢化による面積縮小が課題となっております。

私ども糸魚川市としましては、新規取得者の確保のため、県と連携しながら、丸なすミニ塾を開講し、熟練農業者を講師とした栽培指導を継続して行っているところであります。なかなか効果は見えてこないという現状がございますが、こういったことを関係機関としっかりと連携しまして、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

枝豆について伺います。

新潟県が、今後、育成とプロモーションに力を入れる枝豆ですが、丸茄子のシーズンが初夏から11月までであるのに比べて、枝豆は短く、しかも鮮度がすぐに落ちてしまうということで、こちらの新しいスター候補は扱いが大変とも聞きますが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

議員ご指摘のとおり、枝豆は鮮度が落ちやすいということでもあります。したがって、現時点では、市内消費が中心となっているということでもあります。実証栽培におきましても、来年は作付面積が増える予定であります。そうなってきますと、やはり市外・県外に向けた流通ルートの確保等が課題ということがございます。新鮮なままに出荷をすると、そういった体制を整えていく必要があろうかと思っておりますので、今後も関係機関とともに課題について検証してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

米、越の丸茄子、枝豆の3大スターで糸魚川市の売れる農業を実現する。そんなイメージを広げていきたいと思いますが、それには若い人たち、中高生、子供たちになじんで覚えてもらう。食べれば当然おいしいので好きになってくれると思いますが、そこへの取組について、こちらは教育委員会に、いま一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

こちらのほうは食育に関することとも関係するわけですが、食育の視点から言いますと、先ほど農林水産課長もお話ありましたが、地産地消メニューを給食の中で取り入れ、生産者と交流しながら、その味を味わう。そして、直に交流をしながら、その生産品の価値、そういったものを体感的に理解していく。そんなような取組を全市を挙げて行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

売れる農業推進には、JAと市は情報共有できているところをさらに見える化すべきです。JAひすい直売所食彩館が、移転・拡大して10月にオープンと聞いています。この機会に、例えば糸魚川市もホームページやSNSで売れる農業のコーナーを作って、JAをバックアップしてはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

直売所の支援につきましては、パンフレットの作成、また、情報提供ということで、これまでも取り組んできているところであります。

ご提案いただきました売れる農業に特化したホームページ、SNS、また、食彩館への特化的な情報ということにつきましては、先ほど中野市の例もございましたが、必要な情報につきまして、JA、また生産者の皆さん含めて、お話しさせていただきながら、意見交換させていただきながら研究してまいりたいということで、今現在考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

売れる農業推進には、市内専業農家としっかり向き合い、課題解決に向けて協力と支援をすべきです。人材確保への支援と売れる品目を選択・集中して、効率的に作るための機械化への投資への支援、また、ネット販売サイト、新潟直送計画への出店などへ支援があるとよいとのこと。専業農家の話をよく聴いて、要望に添うよう予算を考えていただきたい。最後、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

私ども農林水産課につきましては、専業農家の方々はもちろんのこと、農家の方々お一人お一人と機会を見つけてお話し合いをしていきたいということでございます。ご相談いただくときもございしますが、先ほど来、出ております地域農業のこれからを考える会や認定農業者連絡協議会など、機会を捕まえましてしっかりと話をしていきたいということでございます。

また、今回、補正予算で新型コロナ対応として、インターネットショッピングモールへの出店費用の補助金を上げさせていただいております。現在の高付加価値支援化事業などを含め、農業者の所得確保に向けて、私ども今後とも取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

分かりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

順番を入替えて、行政情報伝達にアニメを生かすことについての2回目の質問です。

アニメは、若い人向けの有効なコミュニケーションツールだと私は思いますが、その点を改めて担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

おはようございます。

議員おっしゃるとおりアニメを情報発信に使うということは、1つの手段としては非常に有効なものだというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

富山チューリップテレビの広報の取組にハッピーくらぶというのがあります。このアニメキャラクターが、Vチューバー、奥田ふたばさん、オンデマンドで視聴者のお誕生日のお祝いなどメッセージをくれて、見ると私はハッピーになるのですが、担当課長はご覧になりましたか、ハッピーになりましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

富山チューリップテレビのハッピーくらぶ、拝見させていただきました。アニメキャラクターがナビゲートをしたりメッセージをくれたりと、若い方や子供たちには情報を伝える上で非常に効果のあるものだと感じております。何よりハッピーかどうかは別にして、親近感を覚えました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ご覧いただいたんですね、ありがとうございます。私が注目したのは、これがその画面です。この子供向けハッピーくらぶのページから、富山西総合病院を紹介する。この先の医療へという動画もすぐに見ることができます。スマホやウェブでは、バーチャルなアニメとリアルな地域医療が連続しているということです。子供たちは、自然と地域医療に触れ、医師、看護師の仕事に興味を持

ち、進学から就業へつながるようにアニメを活用できないかと思い、今回提案しております。総務課長、健康増進課長、教育長、それぞれの見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

情報発信を担当する立場でお答えさせていただきたいと思います。

情報発信にアニメを活用するということは、手法の1つとして面白い取組だと考えておりまして、特に若者や子供たちに向けて発信するには有効な手段であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

健康増進課におきましては、医療人材の確保は、今後とも努力しなければならない大変大きな課題であります。ご提案いただいた、子供たちが興味を抱くアニメを入り口にし、医師、看護師などの職業を紹介することにつきましては、1つの手法として今お聞かせいただき、今後とも参考にさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

おはようございます。

お答えいたします。

糸魚川市では、キャリア教育を重要というふうに位置づけて取り組んでおります。それを推進していく中で、アニメということがございます。1つのツールとしては有効だというふうに捉えておりますが、アニメだけというわけにもちょっと行かない部分もあろうかと思っておりますので、全体を捉える中で子供たちに分かりやすいキャリア教育を進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

各課長さん、教育長さんから前向きなご答弁を頂いたと思います。課題はあろうかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、えちご押上ひすい海岸物語の2回目の質問です。

パネルを使わせていただきます。

前回の一般質問でも、この駅のデザインセンスに触れました。市の答弁は、これは昔、押上の浜で見られた船小屋を模したものだそうで、地域の特色を生かした歴史性に沿った、また、普遍性を

持つものだという国際的な建築コンテストのプレゼン並みの解説がありました。

ただ、これを見て、市民や観光客の皆さんが、そう思いますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

前回の質問で、船小屋というものをイメージしたこと、あと船小屋がイメージできるかといった点では、もうちょっと研究が必要であるということをお答えさせていただきました。形は、このようにシンプルな状況でございますが、今、議員おっしゃったように、より多くの方にイメージしていただけますように、あとまた長くお使いいただくということを前提に、これから素材ですとか色彩等を煮詰めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私は、子供の頃からいつも浜で遊んでいました。その景色を今も覚えています。また、学生のときは、糸魚川の風土に根差した建物のデザインに興味があり、糸魚川の建物を見てまいりました。押上の船小屋というのなら、もっとシンプルなものじゃなかったかなと思います。言うなれば、お金をかけられない掘っ建て小屋、船と漁具を入れておくだけのスペースですから、二棟に分かれたこのような形ではなかったと思うんですよね。先ほど課長のご答弁では、シンプルだというお話でしたが、もっとシンプルにしたらどうでしょうか。そうすると船小屋のイメージがさらに出るような気がしますので、ご検討いただきたいと思います。

それはさておきましても、このデザインのセンスが高校生や若い方や観光客に受けるとは思われますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

いろいろご指摘ありがとうございます。若い方ですとか観光に来ていただいたお客様にインパクトを与えるような、映えるですとかとんがったようなデザインではないというふうに認識しております。

ただ、駅を利用した高校生が、今ほど議員おっしゃったように、将来、大人になったときに学生時代の通学風景として思い返していただければ、そういう長いスパンで考えますと、それを思っ受けたというふうに考えても私はよろしいのではないかというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

シンプルでシャープなものの方がきれいですよ。

さて、押上地名つながりについてですが、9年前、いといがわ21クラブで墨田区へ政務調査したことがきっかけで、以来、墨田区議会議員や墨田区の押上の皆さんと糸魚川市民で、何度も交流を重ねてきたことはご存じのことと思います。このつながりを今後どのように生かしていくか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おはようございます。

これまで田原議員をはじめ、地元押上区の皆さんなどによりまして、墨田区の押上の皆さんと交流が行われてきておることは承知しておりまして、当市の食を含めてPRいただいていたというふうに思っております。今後とも住民レベルの交流を行っていただくとともに、またこの交流をきっかけとして誘客、例えばツアーの実施ですとかという方向で活動するなど、新たな交流についても検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

墨田区とのつながりは、新駅開業に合わせて、マスコミ、テレビに話題を提供できると思います。トワイライトエクスプレス再現車両の六本木展示でご縁ができた日本テレビさんあたり、川西先生を通じてお願いすれば、押上ひすい海岸を全国に知らしめ、ひいては糸魚川やジオパークの宣伝にもなります。

また、えちごトキめき鉄道の鳥塚社長さんが、講演会でお話しされた東京の京成電鉄の押上駅と姉妹駅とすることで都市交流に活用できます。大きなチャンスだと思います。このチャンスをどのように生かしていきますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

これまでの様々な事業の中、例えばトワイライトエクスプレスの再現車両の取組ですとか、その中で川西さんとのご縁を頂いておりまして、また、えちごトキめき鉄道の鳥塚社長の講演会の中でもいろんなアイデアを頂いているところであります。今後、情報発信の仕方を含めまして、

様々な可能性について検討していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ヒスイ海岸ということで、富山県朝日町とのつながりで公共交通利用と観光に役立つと、これまで何度も提案してきました。何か進展はありましたか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

これまでご提案いただいた中で、また、富山県の朝日町とは北アルプス日本海広域観光連携会議のメンバーとして、昨年度、サイクリストの移動のための輪行バッグの貸出しを行うなど、公共交通の利用促進を含めた誘客の取組を行ってきております。現在コロナ禍において、まだ具体的なものにはなっておりませんが、担当レベルにおきましては、ヒスイ海岸つながりで公共交通を活用した新たな取組ができないか話を始めたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう一つ、HAKUBA VALLEYと連携した観光に押上ひすい海岸を活用しましょうと何度も提案してきました。何か進展はありましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、観光協会を中心としまして、白馬エリアの旅行会社や白馬観光局と相互の観光連携について協議を進めているところであります。秋に、HAKUBA VALLEYの宿泊施設の経営者を対象とした市内への視察ツアーを予定しておりまして、今後、押上ひすい海岸を含めて観光連携を深めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線のほうの活性化協議会というものがございまして、そちらのほうでも当然、北アルプス日本海広域観光連携会議との連携を図りながらなんですが、今度、来年度以降になるかと思えます、押上新駅との連携事業というものも計画してまいります。まだ検討段階ではございますが、これま

での大糸線だけではなくて、押上ひすい海岸を含めたツアーなどを検討して、実施してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう開業後の誘客の準備を始める時期です。そこで、駅周辺の観光飲食施設や商工団体との連携についてさらに伺いますが、課長自身で宿泊、飲食、販売のご商売をされているところを回って、観光やまちづくりについて協議をしましたか。観光ニーズ、ウォンツ、調べてありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

まだ入り口の段階ではありますが、新駅周辺の事業者の一部の方からお話を伺っているところでありまして、また、そのほかにも各所の会合の際など適宜お話をお聞きしているところでもあります。いろいろなアイデアをお聞きすることができましたので、今後さらに議論を深めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

これまでの取組を振り返って、何が不足してるかなというところを考えてみました。私は、観光ストーリーが必要なんだろうと思います。

それで、今回私は、観光ストーリー「えちご押上ひすい海岸物語」これによってエリアのイメージを押し上げ、駅周辺に付加価値を作ること提言しているわけですが、しかし、行政も鉄道会社も地域住民も同じ方向を向いていなければ、そして何よりも地域住民が主役にならないければ、この物語は進まないことも分かっています。これは、この先の地域の課題ですが、まずは、このえちご押上ひすい海岸物語のような観光ストーリー、これを創っていく。この必要性について担当課のお考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

新駅ができることによりまして、その地域への出入口が1つできることとなりますので、ここでしか体験できないことですか、ここでしか見ることのできないものを回遊ルートを示すなどしまして、分かりやすいストーリーとともに紹介していくことが必要になってくると考えております。

議員がおっしゃいますように、これを進めるに当たりましては、当然、主役であります地域の飲食店等を含めた住民の皆さんのご理解とご協力が不可欠でありますので、今後とも地域の皆さんと協議を進めながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

どうぞよろしくお願いいたします。現在、駅の工事が進んでいますが、完成までの半年の間でもできることを、今回2つ提言します。

まずは、今ほどの観光ストーリー「えちご押上ひすい海岸物語」の展開において、アニメが人を呼ぶ力を生かしていくことが重要だと思います。アニメにより、駅とひすい海岸がつながっていく演出が考えられます。駅にアニメ「宝石の国」のヒスイのキャラクターを取り入れて、ひすい海岸の入り口というイメージを創り、アニメファンにとって訪れたい場所にはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご提言のとおり利用促進ですとか観光に来ていただくという面では、アニメキャラクターの人を引きつける力というのは大変魅力的だというふうに考えております。今ほどのご提言のほかにも、えちごトキめき鉄道のグッズに描かれているようなキャラクターですとか久比岐自転車道のPRキャラクター等もいろいろございますので、それらの連携というものを考えてまいりたいと思います。

また、ハード的には下り線側には、海からの風を防ぐための、季節風を防ぐための暴風壁等もホーム上に設置されますので、その辺りの有効活用ということも、併せて考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

2つ目の提言です。

えちご押上ひすい海岸駅のホームを、思い出の場所となるような工夫をしてはいかがでしょうか。駅のホームをひすい海岸のイメージにしてしまう。駅のホームをひすい海岸に見立てて、これは例えばですけども、ホームの床仕上げをコンクリートの洗い出しをベースに宝石に見立てたガラス玉、ビー玉を何列かの列にして並べます。そして、列車の乗り口とは逆のホームの縁に海岸で拾った小石を並べるスペースを造ります。そこに並べる小石は、観光で来た方、あるいはカップルの方から

思い出としてそこに置いていただいてもいいし、市民、子供たちが拾ってきたものでもいい。その小石の集まりを一定の期間ごとにモルタルで固定していきます。これは駅の床の工事が終わった後、何年もかけて多くの人に関わって完成させるひすい海岸駅のホームというイメージです。これでマイステーション意識を育むことができるのではないかという考えからのものですが、そのような取組はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご提言ありがとうございます。色のついた石をまぶされた床材というものを使用することで、ひすい海岸とのつながりというものを意識できるんじゃないかなというふうに思います。

ただ、ホーム自体は、管理上はやはりえちごトキめき鉄道の管理下にございますので、その辺は調整が必要な事項になってくるかと思えます。

それ以外にも、またスロープの踊り場ですとか下り線側に、まだ未計画の部分の広場等もございますので、その辺りもえちごトキめき鉄道のほうと協議を進めながらになります。検討していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ついでながらですけども、ホームの縁、一番外れというところには、人は行きませんよね。そこに石を置くということですから、その上を人が歩くことはない。あるいは縁のほうへ人を行かせないというためにも、そういう仕掛けはいいのではないかということでご提言させていただいております。ぜひともご検討よろしく願いいたします。

さて、駅周辺まちづくりについては、時間の関係で今回は少しだけ触れますが、駅開業後のまちづくりやにぎわいづくりを誰がどのように進めるか、改めて担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員からまちづくりのお尋ねでありますけども、やっぱりまちづくりというのは行政だけではできないというふうに思っております。やっぱりいろんな人の関わりというのが大事だというふうに思っております。やっぱり地元の皆様、それと民間の事業者様、それとあと行政、そういった関わりを得ながら、まちづくりというのは進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域には、これまでもいろんな関係性があったと思います。そこに新しい駅ができる。駅の周辺ににぎわいを作りたい。そういったときに地域の人と人、あるいは人と駅との関係をもう一回考え直していく、再構築する。これがリノベーションのまちづくりだと思います。これを押上駅周辺でも進めていただきたいということでございます。

駅周辺のまちづくりは、次回も質問しますが、新駅近くに気になる建物があるので、そこに関連づけて1つお尋ねします。

今後、新駅周辺のまちづくりとか、まちづくりの活動の拠点があったらいいなと思います。駅から徒歩2分のところに中部森林管理局姫川治山事務所の建物があります。もし、そこが空き家になる場合、壊すにはもったいない立派な建物です。そこで、この建物を市で引き取って使えませんか。あるものを生かしてまちづくりをしませんかということなのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員からの1つの例示というふうに私は受け止めさせていただきたいというふうに思います。確かに新たに造るという発想もいいんですけども、やっぱり今あるものを生かす、あるものを長く使っていくという、そういった感覚というのは非常に大事だと思います。今後、周辺も含めてでありますけれども、いろんな条件があるが思います。そういったものをクリアする中で、あるものを活用していくという考え方を取り入れたもので進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。新駅の周辺には、新幹線の高架下のスペースですとかいろんなものがあります。これの使い方をいま一つ考え直すことで、あの周辺がにぎわったり、住みやすい場所に変わっていく可能性あるんですよ。それをぜひこれから皆さんと一緒に考えさせていただきたい。次回また質問させていただきます。

今回の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

11時25分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時17分 休憩〉

〈午前11時25分 開議〉